

[プロシモン水和剤]

農林水産省登録 第14498号

性状: 類白色水和性粉末 63 μ m以下

毒性: 普通物

危険物: —

有効年限: 5年

包装: 100g \times 100袋、500g \times 20袋

住化

スミレックス®水和剤

有効成分: プロシモン 50.0%

殺菌剤分類 **2**



「住友化学農業ガイド」の見方: i-農力サイトの「製品情報」、「農業ガイドを見る」から、「農業ガイドの見方」をご覧ください。
本剤の最新情報: こちらの2次元バーコードを読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の最新情報をご覧いただけます。

[適用と使用方法]

作物名	適用病害名	希釈倍数	107-ル当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*		
りんご	モニリア病	1000倍	200~ 700 ℓ	90日前	4回		
かんきつ (みかんを除く)	灰色かび病	1500~3000倍		30日前	2回		
みかん				3日前	3回		
もも	灰星病	1000~1500倍		14日前	1回		
すもも		1000~2000倍					
おうとう		1000~1500倍					
あんず		1500倍					
びわ	灰色かび病	1000~2000倍		前日	3回		
ばれいしょ		1000~1500倍		100~ 300 ℓ	21日前	4回	
だいず	菌核病	1000~2000倍					
あずき	1000倍						
らっかせい	汚斑病	1000~2000倍					
いんげんまめ	菌核病 灰色かび病						
きゅうり	つる枯病	1000倍	前日				本剤: 6回 プロシモン: 6回 (#1)
すいか	菌核病	1000~2000倍	7日前				5回
	つる枯病	1000倍					
メロン	菌核病	2000倍	前日				3回
かぼちゃ		1000~2000倍	14日前				
トマト	灰色かび病						
なす	菌核病・灰色かび病	1000~2000倍	前日	6回			
ピーマン	1000倍						
ししとう	黒枯病	5000倍	前日	5回			
キャベツ	菌核病	2000~3000倍					
レタス	菌核病 灰色かび病	1000~2000倍	7日前	5回			

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*
たまねぎ	灰色腐敗病 灰色かび病 小菌核病	1000倍	100~ 300ℓ	前日	5回
	灰色かび病	※16倍	2.4ℓ		
にんにく	黒腐菌核病	種球重量の 0.4%	—	植付前 種球粉衣 (湿粉衣)	1回
いちご	灰色かび病・菌核病	2000倍	100~ 300ℓ	前日	3回
食用へちま とうがん	菌核病			7日前	2回
マンゴー	軸腐病	1000倍	200~ 700ℓ	21日前	3回
にんじん	菌核病	1500倍	100~ 300ℓ	30日前	1回
たばこ		1000~2000倍	200ml /株	大土寄時 (株元灌注)	
リアトリス		—	—	種茎冷蔵保存前 (30分間種茎浸漬)	
ねぎ		小菌核腐敗病 黒腐菌核病	1000倍	100~ 300ℓ	
小麦	雪腐大粒菌核病	—	60~ 150ℓ	75日前	2回
ズッキーニ	菌核病	1000~2000倍	100~ 300ℓ	前日	6回

表中の※無人航空機による散布
#1: 常温煙霧は2回

使用方法: 散布 (にんにく、たばこ、リアトリス、
ねぎを除く)

適用場所	作物名	適用病害名	10アール当り 使用量	10アール当り 使用液量	使用時期*	総使用回数*
温室、ビニール ハウス等 密閉できる場所	きゅうり	灰色かび病	200g	10ℓ	前日	本剤: 2回 プロシドン: 6回 (#1)
	なす		250g	5ℓ		

使用方法: 常温煙霧



効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- 散布液調製後はそのまま放置せずできるだけ速やかに散布する。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液など強アルカリ性薬剤との混用はさける。
- 水溶性内袋入りの製剤を使用する場合は、次の事項に注意する。
 - 内袋はぬれた手で触れない。
 - 外袋の開封後は一度に使い切ることが望ましい。やむを得ず保管する場合でも、できるだけ速やかに使い切る。
 - 薬液調製の際は、容器内の水に内袋を開封せずそのまま投入し、よく搅拌均匀。
- 定植直後又は幼苗、軟弱苗等には薬害を生じるおそれがあるので使用はさける。
- 高温時の散布は薬害を生じる場合があるので注意する。
- トマトは薬害を生じやすいので、下記の注意事項を厳守する。
 - 次の条件の場合は使用しない。
 - ・ 生育が一時停止するような低温にさらされることがある栽培をしている場合。

- ・軟弱徒長気味な栽培となっている場合。
 - ・微量要素欠乏又はその疑いのある場合。
 - ・高温多湿条件の場合。
- 使用する場合は次の注意を守る。
- ・有機リン剤との混用はさける。
 - ・散布液はできるだけ所定範囲内の低濃度（2000 倍液）で使用する。
 - ・所定の薬量を厳守し、薬量過剰にならないようにする。
 - ・くり返し使用する場合は散布間隔を十分（14 日以上）あける。
- あぶらな科作物（特に、白菜、だいこん、ストック）には薬害を生じるおそれがあるので付近にある場合にはかからないように注意して散布する。
 - 薬剤耐性菌の出現を防ぐため本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤と組合せて輪番で使用する。
 - 本剤をキャベツに使用する場合は、薬液がかかった葉に極く微小な薬斑を生じることがあるので、使用濃度を厳守する。
 - ハウス等の常温煙霧用として使用する場合は特に次の事項に注意する。
 - 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧する。特に常温煙霧装置の選定及び使用にあたっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受ける。
 - 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉しておく。できれば翌朝までそのままとし、開放後十分換気して入室する。
 - 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守る。
 - 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施する。
 - 散布機種種に適合した散布装置を使用する。
 - 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行う。



安全使用上の注意



- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意する。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 本剤は皮ふに対して刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意する。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼する。
- 常温煙霧においては、薬剤処理中はハウス内に入らない。
また、薬剤処理終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室する。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。
- 水溶性フィルムで包装した製剤は吸湿性があるので、湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管する。

「[農薬ガイドの見方](https://www.i-nouryoku.com/prod/search/) (<https://www.i-nouryoku.com/prod/search/> 農薬ガイドの見方.pdf)」の「3. 注意事項：(1)、(2)、(3)、(4) - C」も合わせてお読み下さい。

〔品目特性〕

- ジカルボキシイミド系の殺菌剤です。
- 作用機作は細胞壁の合成阻害と考えられています。
- 予防効果、病斑伸展阻止効果があります。
- ボトリチス属菌、スクレロチニア属菌に効果があります。